

## メニューの使用法

ラジオには、ユーザー、特に初めてラジオを使用するユーザーにとって、機能を説明するために短い用語を使用するメニュー システムが含まれています。このメニュー項目の説明は、すべてのユーザーが各メニュー項目を理解するのに役立ちます。

### メニューに入る

ラジオにある **M** というラベルの付いた大きなキーは、ラジオのメニューに入るのに役立ちます。短く押すと、最初の項目のメニューが開きます。長押しすると、メニュー内で最後にアクセスした項目までメニューが開きます。

### メニューを終了する

ラジオの「**EXIT**」というラベルの付いた大きなキーは、ラジオのメニューを終了するのに役立ちます。短く押すとメニューが終了します。長押しすると短押しとして登録され、メニューが終了します。

### メニュー項目の選択

メイン メニューに入ると、メニュー項目が画面の左側に表示されます。現在選択されているメニュー項目が強調表示されます。そのメニュー項目に対して現在選択されている値が右側に表示されます。また、左側の下部には、01 から 51 までのメニュー項目の番号が表示されます。アクセスするメニュー項目を見つけるには、上下の矢印キーを使用するか、メニュー項目番号を使用します。キーパッドで入力できます。たとえば、**VOX** 設定にアクセスするには、下矢印を 14 回押すか、キーパッドで数字 15 を入力します。

### メニュー項目へのアクセス

目的のメニュー項目が強調表示されたら、メニュー キーを押すと、そのメニュー項目に入ります。これは、右側のパネルの左上にある小さな黒い矢印で示されています。

### メニュー項目の調整

メニュー項目を選択したら、上下の矢印キーを押すと、そのメニュー項目の設定が調整されます。選択を確認するには、メニュー キーを押します。選択をキャンセルするには、終了キーを押してください。選択をキャンセルしてメニューの先頭に戻るには、終了キーを長押しします。

## メニューの説明

### 01

**SQL** - スケルチ レベル - 0-9 - スケルチは、送信がないときにスピーカーをカットするラジオの機能です。通常、キャリア信号の存在を使用して送信を検出し、スピーカーをオンに戻します。場合によっては、音声周波数も使用できます。スケルチ レベルは、スピーカーの電源をオンに戻す前に、検出されたキャリア信号がどれだけ強くなければならないかを決定し、範囲は 0 (オフ) から 9 (非常に強い) で、デフォルトは 4 です。

### 02

**STEP** - ステップ周波数 - 2.5K/5K/6.25K/10K/12.5K/25K - ステップ周波数は、周波数モードで上または下キーを押したときの、ある周波数から次の周波数へのステップです。300MHz でステップが 25KHz の場合、UP キーを 1 回押すと、周波数は 300.025MHz になります。STEP サイズを小さくすると、より細かい制御が可能になりますが、周波数を大きく変更するには、より多くのキーを押す必要があります。デフォルトは 12.5KHz です。

### 03

**TXP** - 出力電力 - LOW/MID/HIGH - これは無線の送信電力です。実際の値は周波数によって異なりますが、基本値は低 - 1.25W、中 - 2.5W、高 - 5W です。デフォルト値は H です。

#### 04

**R\_DCS** - DCS 受信 - (OFF、1-104:DCS、105-208:リバース DCS)。- キーパッドの F+\* を短く押して、DCS のスキャンを開始します。- DCS はデジタル コード スケルチです。これは 3 桁のバイナリ コードで、以下の音声送信は低周波でエンコードされており、聞こえないように HT によってフィルタリングされる必要があります。これは、正しい DCS コードを含まない無線機からの送信を受け入れないレピーターやその他の無線機へのアクセスを制御するために使用されます。オプションでは 1 ~ 208 の範囲であると示されていますが、実際の DCS コードも選択用のメニューに表示されます。F ボタンを押してからキーパッド ボタンの \* (F + \*) を押すと、現在の周波数で DCS トーンの無線スキャンが開始されます。トーンが検出されると画面に表示され、保存するオプションがあります。この無線のコードのリストについては、表 1 を参照してください。デフォルト値はオフです。

#### 05

**R\_CTCSS** - CTCSS の受信 - (OFF、1-50:CTCSS) - F+\* を短く押して CTCSS スキャンをトリガーします。- CTCSS は連続トーン コード化スケルチ システムです。このシステムは DCS よりも古く、音声伝送に追加される準可聴トーンを使用してスケルチを無効にします。キーパッドの F ボタンを押してから \* ボタン (F + \*) を押すと、現在の周波数で CTCSS トーンの無線スキャンが開始されます。トーンが検出されると、それが画面に表示され、保存するオプションがあります。この無線のコードのリストについては、表 2 を参照してください。デフォルト値はオフです。

#### 06

**T\_DCS** - 送信 DCS - (オフ、1 ~ 104:DCS、105 ~ 208: 逆 DCS) - DCS はデジタル コード スケルチです。これは 3 桁のバイナリ コードで、低周波での音声送信でエンコードされており、聞こえないように HT によってフィルタリングされる必要があります。これは、正しい DCS コードを含まない無線機からの送信を受け入れないレピーターやその他の無線機へのアクセスを制御するために使用されます。選択範囲は OFF ~ 208 で、実際の DCS コードが画面に表示されます。この無線のコードのリストについては、表 1 を参照してください。デフォルト値はオフです。

#### 07

**T\_CTCSS** - CTCSS の送信 - (OFF、1-50:CTCSS) - CTCSS は連続トーン コード化スケルチ システムです。このシステムは DCS よりも古く、音声伝送に追加される準可聴トーンを使用してスケルチを無効にします。キーパッドの F ボタンを押してから \* ボタン (F + \*) を押すと、現在の周波数で CTCSS トーンの無線スキャンが開始されます。トーンが検出されると、それが画面に表示され、保存するオプションがあります。この無線のコードのリストについては、表 2 を参照してください。デフォルト値はオフです。

#### 08

**SFT-D** - 周波数偏差設定 - (OFF: TX 周波数 = RX 周波数; ADD: TX 周波数 = RX 周波数 + 周波数偏差; SUB: TX 周波数 = RX 周波数 - 周波数偏差) - この設定により、送信 (TX) 周波数が可能になります。受信 (RX) 周波数からオフセットされます。TX 周波数を開始点として使用し、この設定と OFFSET 設定に従って RX 周波数を変更します。3 つのオプションは、OFF、ADD、SUB です。OFF は、RX 周波数が TX 設定と同じであることを意味します。これがデフォルトです。ADD は、RX 周波数が TX 周波数よりも OFFSET だけ高くなることを意味します。SUB は、RX 周波数が TX 周波数よりも OFFSET だけ低くなることを意味します。デフォルト値はオフです。

**09**

**OFFSET** - 周波数偏差の周波数 - (0-999.9999M) - これは、送信 (TX) 周波数と受信 (RX) 周波数の差のオフセット量です。STEP 周波数によって、無線がカバーできる任意の値に変更できます。デフォルト値は 0 です。

**10**

W/N - チャンネル帯域幅 - (0: WIDE; 1: NARROW) - FM 変調の帯域幅を設定します。信号はキャリア (メイン) 周波数の周波数を変調することによってエンコードされるため、帯域幅は周波数がメイン周波数からどの程度変化できるかを定義します。狭帯域は最大 12.5KHz まで変化できます。広帯域は最大 25KHz まで変化できます。デフォルト値は 1 です。

**11**

**SCR** - 暗号化通信 - (OFF、1-10: 1 ~ 10 種類のスクランブル周波数。) - この無線機は、音声反転と呼ばれる単純な形式の音声暗号化を使用する機能を備えています。これは、キャリア周波数でオーディオを振幅変調し、ローパス フィルターを使用して下側波帯を選択することによって行われます。これは基本的に声のトーンを反転しますが、単語のリズムは変更しません。音声反転は、基本的な機器を使用して簡単に復号化できます。反転周波数は表 3 に示されています。デフォルト値はオフです。

**12**

**BCL** - ビジー チャンネル ロック - (オフ/オン) - この機能を有効にすると、無線機がすでにチャンネル上にある送信を検出したときに送信 (TX) 機能が無効になります。DCS または CSTSS スケルチ コードを使用している場合は送信が聞こえない可能性があります、無線も送信を検出して送信を妨げます。デフォルト値はオフです。

**13**

**MEM-CH** - チャンネル保存 - (上/下キーと数字キーでチャンネルを選択し、MENU キーを押してチャンネルを保存します。) - これにより、現在の周波数、モード、電力レベル、および DCS/CTCSS 設定が選択したチャンネルに保存されます。チャンネル。これにより、別のコンピュータを使用せずに、保存したいさまざまなチャンネルでプログラムすることができます。

**14**

**SAVE** - バッテリーセーブ - (OFF/1:1/1:2/1:3/1:4) アクティブ時間とスリープ時間の間の割合。 - この設定により、無線がアクティビティを監視している周波数をスキャンしない時間が追加されます。これにより、バッテリーの寿命が延びます。これには、2 つのデュアルウォッチ (DW) 周波数だけでなく、NOAA 気象警報も含まれます。デフォルトは 1:4 です。

**15**

**VOX** - VOX 設定 - (OFF: VOX をオフ、1-10: 1 から 10 までのグレード) VOX はラテン語で音声を意味します。この設定では、スピーチの始まり、つまりあなたの声を使用して送信を開始します。これは、送信を開始するために送信ボタン (PTT) を押す必要がないことを意味します。これは、ハンズフリー ヘッドセットを使用する場合に最も便利です。VOX 番号は、VOX 回路の感度を定義します。1 は非常に敏感で、低い話数で送信を開始し、10 は非常に鈍感で、叫び声のみで送信を開始します。デフォルトはオフです。

**16**

**ABR** - 自動バックライト - (OFF: バックライトをオフにする; 1-5: 1 ~ 5 秒でバックライトをオフにする) - 画面にはバックライトが付いており、暗い環境でも画面を確認できます。ただし、バックライトも電力を消費します。ファームウェアは、一定時間が経過すると常にバックライトをオフにするか、バックライトをオフ

のままにするように設計されています。この設定では、バックライトのタイムアウト時間を秒単位で設定できます。デフォルトは 5 秒です。

**17**

**TDR** - デュアルウォッチ オン/オフ - (オフ: 閉じる、CHAN\_A: デフォルトの TX チャンネルは A チャンネル、CHAN\_B: デフォルトの TX チャンネルは B チャンネルです。) - デュアルウォッチは、ラジオがリスンするラジオの機能です。チャンネル A とチャンネル B の両方を送信します。いずれかのチャンネルでスケルチ レベルより高い信号が検出された場合、その信号はスピーカーからブロードキャストされます。ただし、マイクが 1 つしかないため、Press To Talk (PTT) ボタンを押したときに送信用にどのチャンネルをアクティブにするかをユーザーが決定する必要があります。送信チャンネルは、メニューに入ることなく、キーパッドの F キーを押してから 2 キー (F + 2) を押すことで変更できます。TDR と WX は機能的に似ていますが、TDR では両方のチャンネルを聞くことができます。これは、TDR を有効にすると WX がオーバーライドされることを意味します。デフォルトは CHAN\_A です。

**18**

**WX** - クロスバンド受信/送信 - (OFF: 閉じる、CHAN\_A: TX チャンネルは A チャンネル、CHAN\_B: TX チャンネルは B チャンネルです。) - TDR と同様に、WX では無線で 2 つの周波数を設定できます。1 つは受信 (RX) 用で、もう 1 つは送信 (TX) 用です。TX チャンネル上に他の送信がある場合、それらは無線で受信されません。RX チャンネルでの送信のみ。TDR をアクティブにすると、WX がオーバーライドされ、無線が両方のチャンネルで送信を受信できるようになります。デフォルトはオフです。

**19**

**BEEP** - BEEP コントロール - (OFF、ON) - ボタンを押すたびにビーブ音を鳴らすことができます。この設定では、ボタンのビーブ音をオンまたはオフにします。デフォルトはオンです。

**20**

**TOT** - タイムアウトタイマー - (1-10min) - これは送信のタイムアウトタイマーです。これは、設定された送信時間が経過すると、無線が送信を停止することを意味します。これにより、バッテリーが節約されるだけでなく、偶発的または意図的な過剰使用から周波数が解放されます。デフォルトは 2 分です。

**21**

**VOICE** - 音声プロンプト - (オフ、CHI: 中国語、ENG: 英語) - ラジオは、すべてのキーを押すこととすべてのメニューを音声で通知できます。デフォルトは ENG です。

**22**

**SC-REV** - スキャン再開モード - (TO: 5 秒間の一時停止後にスキャンを再開します。CO: 信号が消えた後にスキャンを再開します。SE: 信号を受信した後、スキャンを停止します。) - この無線機には、一連のスキャンを実行する機能があります。スキャンリストに保存されている周波数。スキャン リストは 2 つあります。これはデュアルウォッチに似ていますが、より多くの周波数をカバーします。スキャン リストをスキャンしているときに信号が検出されると、ラジオはスキャンを停止し、スピーカーから信号を再生できるようになります。この設定は、信号が検出された後の無線の動作を制御します。3 つのオプションは、TO、CO、SE です。TO (タイムアウト) では、時間が経過するまで信号を聞くことができます。この時間は 5 秒に固定されています。5 秒後、無線はスキャンを再開します。CO (キャリアオフ) を選択すると、信号が停止するまで信号を聞き続けることができます。その後、ラジオはスキャンを再開します。SE (スキャンエンド) は、信号が検出されたチャンネルのスキャンプロセスを停止します。ユーザーは手動でスキャンを再開する必要があります。デフォルトは CO です。

**23**

**[MDF]** - チャンネル表示モード - (**FREQ**: 周波数の表示、**CH**: チャンネル番号の表示、**NAME**: チャンネル名の表示) - ラジオが周波数 (**VFO**) モードではなくチャンネル モード (**MR**) の場合、チャンネルが表示されます。(s) 現在画面に同調しています。3 つのオプションがあります。 **FREQ** はチャンネルの周波数を **MHz** で表示します。 **CH** は画面上のチャンネル番号を表示します。これは、現在のチャンネルがプログラムされている「スロット」番号です。 **NAME** には、ラジオのメモリに入力されたチャンネルの名前が表示されます。これは、**CHIRP** またはその他のソフトウェアを介して実行できます。 **VFO** モードでは、周波数が **MHz** 単位で表示されます。デフォルトは **FREQ** です。

**24**

**[AUTOLK]** - 自動キーパッド ロック - (オフ、オン) - オンにすると、キーパッドは 15 秒後に自動的にロックされます。ロックを解除するには **#** キーを押し続けるように指示されます。デフォルト値はオフです。

**25**

**[S-ADD1]** - リスト 1 のスキャンに参加するかどうか - (**OFF**: 参加しない、**ON**: 参加) - **SCAN** モードがアクティブになると、ラジオは選択したスキャン リストに保存されているすべてのチャンネルをスキャンします。このオプションをオンにすると、現在アクティブなチャンネルが **SLIST1** に追加されます。このオプションが **ON** の場合、チャンネルは **SLIST1** にあります。このオプションを **OFF** に変更すると、**SLIST1** からチャンネルが削除されます。デフォルト値はオフです。

**26**

**[S-ADD2]** - リスト 2 のスキャンに参加するかどうか - (**OFF**: 参加しない、**ON**: 参加) - **SCAN** モードがアクティブになると、ラジオは選択したスキャン リストに保存されているすべてのチャンネルをスキャンします。このオプションをオンにすると、現在アクティブなチャンネルが **SLIST2** に追加されます。このオプションが **ON** の場合、チャンネルは **SLIST2** にあります。このオプションを **OFF** に変更すると、**SLIST2** からチャンネルが削除されます。デフォルト値はオフです。

**27**

**[STE]** - テールトーン除去 - (**OFF**、**ON**) - スケルチテール除去 (**STE**)。送信が完了し、**Press-To-Talk (PTT)** キーが放されると、受信無線機がキャリアの損失を検出し、スピーカーがオフになります。ただし、このプロセスは瞬間的なものではなく、ラジオから短いバースト的な雑音が聞こえます。この静電気のバーストを回避する 1 つの方法は、**PTT** キーを放したときに送信を停止する前に、可聴以下の短いトーン (**55kHz**) を約 280 ミリ秒送信することです。この信号は、同じシステムを使用していると想定して、受信無線機によって検出され、搬送波が消える前にスピーカーの電源がオフになります。これにより、短時間の静電気が解消されました。デフォルト値はオフです。

**28**

**[RP-STE]** - リピータ テール トーン除去 - (オフ、1 ~ 10 \* 100ms) - プレス トゥ トーク (**PTT**) ボタンが放された後も、リピータ スケルチ テール除去 (**RP-STE**) は一定時間送信を続けます。 。100ms から 1000ms(1 秒)まで 100ms 単位で設定可能です。デフォルト値はオフです。

**29**

**[MIC]** - MIC Sensitivity - (0-4: 0-4 level) - マイクの感度レベルを設定します。数値が大きいほど感度が高くなります。デフォルト値は 2 です。

**30**

**[1-CALL]** - ワン キー コール チャンネル - (上/下キーと数字キーを使用してチャンネルを選択します) - ワン キー コール チャンネル。デフォルト値は **CH-001** です。

**31**

**S-LIST** - チャンネル スキャン リストの選択 - (**LIST1**: スキャン リスト 1; **LIST2**: スキャン リスト 2) - **SCAN (F + \*)** を選択すると、無線機は 2 つのスキャン リストのいずれかにある各チャンネルをスキャンします。リスト 1 またはリスト 2。このオプションを使用すると、ユーザーはどのリストをスキャンするかを選択できます。デフォルト値は **LIST1** です。

**32**

**SLIST1** - チャンネル スキャン リスト 1 の設定 - スキャン リスト 1 (**SLIST1**) をスクロールして、リストに含まれるチャンネルを確認できます。リストが空の場合は、**NULL** が表示されます。このメニュー項目では設定は行われません。

**33**

**SLIST2** - チャンネル スキャン リスト 2 の設定 - スキャン リスト 2 (**SLIST2**) をスクロールして、リストに含まれるチャンネルを確認できます。リストが空の場合は、**NULL** が表示されます。このメニュー項目では設定は行われません。

**34**

**AL-MOD** - アラーム モード - (サイト: ローカル アラーム、トーン: 遠隔 + ローカル アラーム) - ラジオにはアラーム トーンを発する機能があります。この設定は、アラーム トーンがラジオのスピーカーからのみ発せられるか (**SITE**)、信号がスピーカーと無線送信の両方から発せられるか (**TONE**) を決定します。

**35**

**ANI-ID** - ANI-ID、DTMF 通信無線 ID - 無線は、デュアル トーン多重周波数 (DTMF) コードを使用して 3 桁の ID コードに応答する機能を備えています。このコードはソフトウェアを使用してのみ設定でき、無線機のフロント パネルからは設定できません。コードには、任意の数字 (0 ~ 9) と文字 A、B、C、または D を含めることができます。無線が DTMF 呼び出しコードに応答できるようにする設定は、43 D-DCD です。

**36**

**UPCODE** - DTMF UP CODE - 無線機には、送信の開始時にデュアル トーン多重周波数 (DTMF) コードを使用して 3 桁の ID コードを送信する機能があります。このコードはソフトウェアを使用してのみ設定でき、無線機のフロント パネルからは設定できません。コードには、任意の数字 (0 ~ 9) と文字 A、B、C、または D を含めることができます。メニュー エントリ 42 PTT-ID は、このコードが送信されるかどうかを制御します。

**37**

**DWCODE** - DTMF ダウン コード - 無線機には、送信の最後にデュアル トーン多重周波数 (DTMF) コードを使用して 3 桁の ID コードを送信する機能があります。このコードはソフトウェアを使用してのみ設定でき、無線機のフロント パネルからは設定できません。コードには、任意の数字 (0 ~ 9) と文字 A、B、C、または D を含めることができます。メニュー エントリ 42 PTT-ID は、このコードを送信するか、今送信するかを制御します。

**38**

**D-ST** - DTMF サイド トーン スイッチ - (OFF、ON) - この設定は、DTMF コードの送信時に DTMF サイド トーンがラジオのスピーカーからエコーされるかどうかを制御します。OFF に設定すると、トーンは送信されますが、ラジオのスピーカーからはエコーされません。